

中国人の性格

今回は中国人の性格について話します。一国の国民の性格を総じて語ることは一種のステレオタイプ化であり、簡単なことではないことは重々承知しています。しかし、今回はあくまで私がこれまで四か月あまり中国で生活する中で、遭遇したことや気づいたことをもとにしているという前提のもと、話してみたいと思います。

まず、意外に思われる方もいるかもしれませんが、中国人はとても謙虚です。何かについて褒めると必ず「そんなことないよ」、と謙遜します。中国語にはその時に使う「哪里哪里」（いやいやとんでもない）や「马马虎虎」（そんなでもないです、やっつです）という言葉もあります。

また、中国人には客をもてなす、という文化があり、客人に対して大変気前がいいです。例えば数人の中国人と私が初めて食事をするときなど、「今日は、初めて会ったから、私たちがあなたをもてなすよ」と言っておごってくれることがよくありました。そして私が「いいいいよ」というと、「太客气了」（気を使いすぎだよ）、「别客气了」（遠慮しないでよ）といさめられます。この「客气」というのは、「遠慮」という意味です。

一方で、ある中国人の友人によると、「中国人は他人には冷たい」そうです。中国人は一旦仲良くなると、非常に親切だし、よく世話を焼いてくれます。しかし、赤の他人のことはどうでもいいし、敵だといっても過言ではないそうです。確かに、私が日本で使っていた中国語の教科書の中で、道でけがをしている人を助けたのに、その人に言われもなく罪を擦り付けられ賠償金を要求された、という事件を見たことがあります。ですから、中国では外で知らない人を安易に助けてはいけません。

一方で、私が中国で生活する中で、見知らぬ外国人である私に対して親切にしてもらったことが何度もあります。例えば、私が中国に来るとき、上海で別の空港に移動して飛行機を乗り換えなければなりませんでした。その時に最初の飛行機で隣に居合わせた中国人の女性が、次の空港への移動方法を調べてバス停まで連れて行ってくれました。それから、バスに乗るときにバスカードも小銭もないことに気づいた（バスに乗るときはバスカードを使うか、ぴったりの小銭を用意しなければならない）ときや、バスに乗ってからバスカードのチャージが足りないことが分かったときがありました。しかしどちらも見知らぬ人が代わりにバス代を支払ってくれたのです。

例えば、2005年に尖閣諸島問題が再燃、中国における反日デモが激化した際の映像からイメージされる「血の気の多い中国人」、日本に観光に来る「爆買いする中国人」「マナーの悪い中国人」など、日本のメディアで見られる中国人のイメージはあまりいいものではないことが多いような気がします。しかし、実際に中国で生活してみると、それらはただの一側面にすぎないということがよく分かります。当たり前ですが、中国人にも「いい人」も「悪い人」もいて、みんなそれぞれ性格が違い、一概に「中国人は～だ」と決めつけることはできないのです。そしてこれはもちろん日本にだって、そして他のどの国にだって

当てはまるはずです。物事にはいろんな側面があるということ。色眼鏡で人を見るべきではないということ。留学という自分の今まで生活してきた場所とは違う場所に長く身を置く経験を通して、これらの教訓がより実際のものとして得られるように思います。



本文とは関係ないですが、12月22日は冬至でした。中国では冬至に餃子を食べる習慣があり、私も中国人の友人たちと餃子を作って一緒に食べました。